



学生主体のイーグレひめじの活性化にむけたプロジェクト実践：兵庫県立大学都市計画研究室の2022年度・2023年度の活動報告

河原, 美羽 ; 細見, 佳乃子 ; 大前, 亜喜 ; 雫石, 千代乃 ; 筒井, 勇翔 ; 土肥, 真由香 ; 藤原, 志帆 ; 前田, 菜緒 ; 太田, 尚孝

(Citation)

兵庫地理, 69:157-165

(Issue Date)

2024

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489589>



学生主体のイーグレひめじの活性化にむけたプロジェクト実践

—兵庫県立大学都市計画研究室の2022年度・2023年度の活動報告—

河原 美羽・細見 佳乃子・大前 亜喜・零石 千代乃・筒井 勇翔・
土肥 真由香・藤原 志帆・前田 菜緒・太田 尚孝

I. イーグレひめじにおけるPBLの実施背景

本稿は、兵庫県立大学環境人間学部都市計画研究室の3年生が2022年度及び2023年度にイーグレひめじ（以下、イーグレと省略）にて実施したPBL（Project Based Learning）の活動報告である¹⁾。活動の舞台であるイーグレは、姫路城に近接する複合施設であり、お城本町地区第一種市街地再開発事業により2001年6月に竣工した。施設は、店舗及び住居の東棟²⁾と、姫路市の公共施設や商業施設などが入居する西棟³⁾に大別され、PBLは学生主体による西棟の活性化を目指した（写真1）。



写真1 PBL実施のイーグレ西棟の外観

出典：学生撮影（2023年6月4日）

直接的なPBL実施の背景は、既に先行して民間主体で行われていた西棟の活性化プロジェクトメンバーからの協力要請であった。これに加えて研究室としても①西棟は姫路城に近接しガラス張りの外観や建物からの眺望もよくシンボリックな施設であるにもかかわらず近年の来館者や施設運営は停滞気味であり、地元大学の都市計画研究室としても施設の再生に関心があったこと、②関係主体の努力により2階部分の大規模リニューアルが行われ新たに「しろみエール」というイベントスペースが2021年にオープンするなど民間主体の再生の機運が高まりをみ

せており、大学とのコラボレーションとの土壌が形成されていたこと、③研究室学生の卒業後の進路先として不動産の企画開発や管理に関わる企業や自治体公務員が多く、施設建設そのものよりもいかに施設の維持管理や更新が必要であるかを学生時代に経験しておくことは将来の糧になると考えられたこと、がプロジェクト実施の背景にあった。

以下、2022年度及び2023年度の活動報告となるが、PBLの実施方針として、文字通り学生主体で進めることが教育的にも実践面でも好ましいと関係者間で事前に共通理解が示されていた。

II. 2022年度の活動報告

1) スケジュール・実施体制

2022年度は「誰かにお勧めし、利用したくなるイーグレひめじ」をコンセプトに、イーグレのデベロッパーである西松建設株式会社と、姫路市にあるデザイン会社の夕雲舎と協働する形で、イーグレ再生のための具体的な提案として、学生目線のフロアガイド「イーグレひめじ+」の作成を行った。活動時期は春休みから11月であった（第1図）。

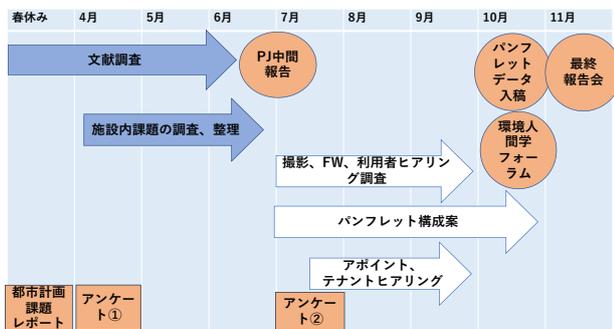
一連の活動の最初にイーグレの成り立ちを理解するため『事業記念誌：お城本町地区第一種市街地再開発事業』のレビューを行い、施設整備の背景を学習した。また、兵庫県立大学環境人間学部生へのイーグレに関するレポート課題及びアンケート調査等から直面する課題を分析した。その後、しろみエールの利活用案の検討のため、しろみエールで行われたイベントに参加し、来館者へのヒアリング調査やアンケート調査も行った（写真2）。



写真2 学生によるヒアリング調査の様子

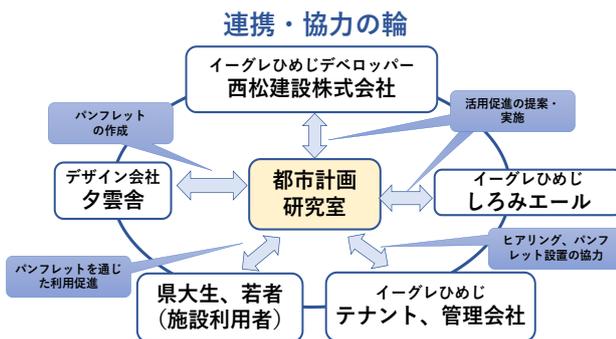
出典：学生撮影（2022年9月28日）

以上の調査から浮かび上がったイーグレの課題点は、①施設を回遊する利用者が少ない、②若者の認知度が低い、③空間が活かせていない、の3つであった。この現状分析をもとに、地元にある大学の都市計画研究室の学生が連携・協力の輪の中心となり、施設内関係者と若者利用者をつなげる実施体制の構築を図った（第2図）。



第1図 2022年度の活動スケジュール

出典：筆者作成



第2図 2022年度の実施体制

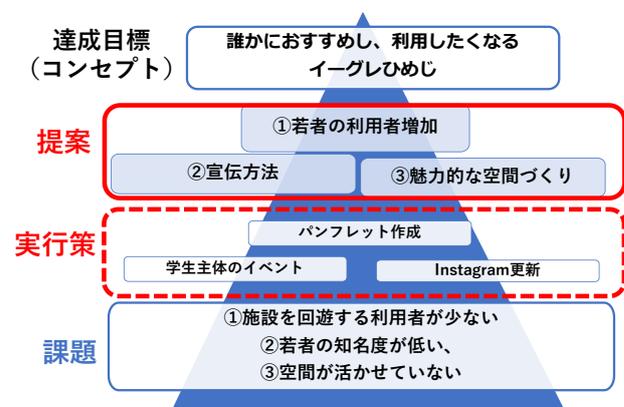
出典：筆者作成

2) 活動内容

1. 企画検討

前述した課題解決に対する具体策と提案について検討し、活動の方向付けを行った（第3図）。フロアガイド作成に関連して、施設内のテナントへのヒア

リング調査を計2回行い、同時に写真撮影も実施した。完成したフロアガイドは、イーグレ館内のみならず、兵庫県立大学環境人間学部内にて設置、学生が学生に直接配布をすることで、イーグレに欠けている若者の利用者増加、広報活動の改善を図った。また、学生主体のイベントでは、学内の学生団体へ空間の利活用促進の先駆けとして、しろみエールのレンタルスペースの利用を呼びかけ、イベント実施の相談役（イベントのコンセプト、ターゲットの絞り込み、イベントの実施時期、場の使い方、広報活動の支援など）として関わった。これにより、若者の利用者増加と魅力的な空間づくりに繋がった。



第3図 達成目標への考え方と実行策

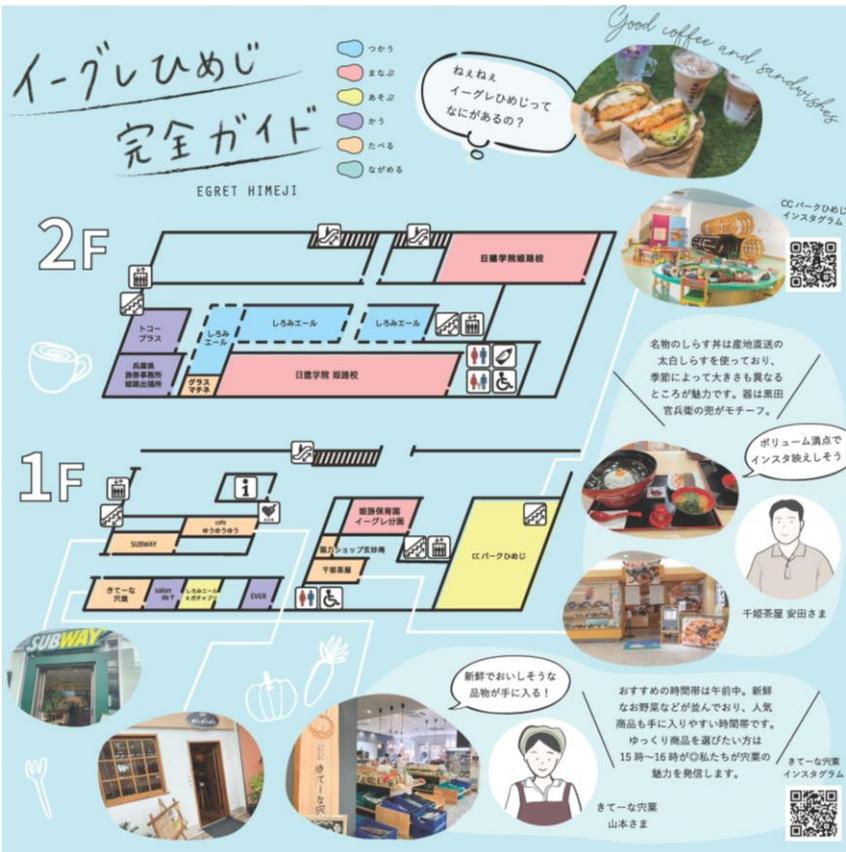
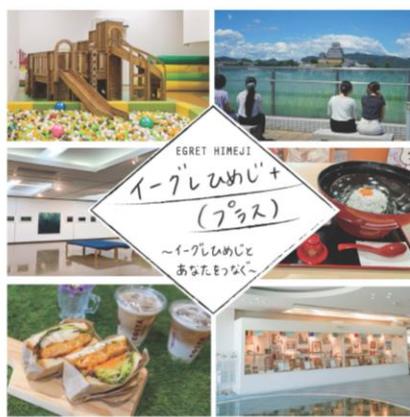
出典：筆者作成

2. プロジェクト実施

①「イーグレひめじ+（プラス）」の作成

フロアガイドは、イーグレに新たに興味を持ち、来館者の増加や、実際にこれを用いてしろみエールでアクションを起こす若者の増加などを主目的として作成した。そのため、サブタイトルを～イーグレひめじとあなたをつなぐ～とし、学生目線と利用者目線を重視した（第4図）（第5図）。作成に当たって、サイズ感の検討からレイアウト、掲載する文面の構成、西松建設株式会社、夕雲舎との打合わせは全て学生主体で行った（写真3）。

紙面の構成は、表面にイーグレの地下から屋上までの施設紹介や利用者増が特に期待される1階及び



第4図 作成したイーグレひめじ+の表面（学生目線のフロアガイド）

2階部分の詳細なフロアガイド、裏面にイーグレ2階のしるみエールの利活用方法と事例紹介とした。また、実際に手に取ってもらい、読んでもらうための工夫として、持ち運びしやすいサイズ感（40cm×40cmの9面折）や、施設の特徴や設備が一目でわかるアイコン表示、テナントや利用者の生の声、学生目線での魅力を掲載したことなどが挙げられた。詳細なデザインは学生では困難であるため、デザイン会社の夕雲舎に依頼したが、紙面のレイアウトや掲載内容等は学生が主体的に担った。なお、最終的には環境人間学部のホームページ（[\[maga.com/seminar/936\]\(https://shse-maga.com/seminar/936\)）に掲載することで、デジタルデータとして使用できるようにした。](https://shse-</p>
</div>
<div data-bbox=)



写真3 学生によるイーグレひめじ+の検討模様
出典：学生撮影（2022年6月16日）

How can we use Shiro-mi-yell!

しろみエールはどう使える?

しろみエール主催イベントに参加してみよう!

特徴

- キレイなトイレ
- 雨天でも快適
- FREE Wi-Fi
- 天井高
- 広さ
- 机
- 椅子
- 1階
- エレベーター
- 608×1200mm

設備

- Wi-Fi
- 天井高
- 広さ
- 机
- 椅子
- 1階
- エレベーター
- 608×1200mm

2022年8月6日-8月7日 SUMMER PARTY in しろみエールの場合
～兵庫県立大学 学生団体 Change～

8月6、7日(土、日)にしろみエールにて行われた「SUMMER PARTY in しろみエール」親子向け体験型ワークショップやマルシェが多客出席し、両日大盛況であったこのイベント。
1日目には兵庫県立大学学生団体 Change がジェルキャンダルを作成するワークショップを出展しました!

定期的なしろみエールで開催されているイベントに参加しています。室内でできる上に、夏は涼しく、冬は暖かいので魅力を感じています。ほかのマルシェイベントにも出展していますが、こちらではしろみエールと連携し、室内を行い、集客も見込めるため、これからも出展し続けたいと考えています。

Workshop at Shiro-mi-yell

マルシェ出店者の声

アクセサリー・レジンアート Lienさま

兵庫県立大学学生団体 Change の声

しろみエールの方々の協力もあり、学生でも出展しやすい環境が整えられていました。施設内はコンセントが設置してあったり、休憩できるスペースもあって快適に過ごせました。SUMMER PARTY in しろみエールでは、親子連れのお客が多く、ジェルキャンダルというテーマが親子世代に受け入れられるのが良かったです。今回学生団体 Change として初めて自分たちでイベントを企画して、参加したイベントになりましたが、挑戦してみようかと。今後、機会があればまた参加したいです。

参加してみても楽しかったです。イーグレひめじは子連れにやさしい施設で、本当にたくさんありますし、芝生で靴を脱いでくつろげるのが気に入っています。

子どもが楽しんでくれてよかったです。たくさんブースがあるので楽しいですね。

いつも数歩の休憩に立ち寄っています。今日はたまたまサブスペースまで行ってたので、カフェから椅子をうかがっていました。イーグレひめじ、しろみエールは静かで、快適に過ごせました。お昼食も利用しています。

図書館を利用するため立ち寄ったらイベントが行われていたので驚きました。子どもたちが遊ぶスペースがたくさんあり楽しかったです。

The voices of visitors at Shiro-mi-yell

思い切って! 単独イベントを開催してみよう!

しろみエールのレンタルスペースを貸して、単独イベントを開催することができます。

「学生への無料レンタルについての条件」
●学生であること ●集客を見込めること ●収益を生まないこと

イベント開催までのフロー

- 企画書作成、イベント実施日の予約
イベント開催1か月前にはレンタル目的やイベント概要を記載した企画書を作成し、しろみエールに提出します(メール、直接手渡し)。企画書提出後にイベント内容に照して審査を行うため、提出には余裕を持つことをおすすめします! イベント実施日はしろみエールHPにてレンタル可能日を確認のうえ、予約をすることも可能です。
- イベント開催に向けた準備
この段階からはイベント実施する方の側の見せ所! 自分たちが実施したいイベントに向けて準備、調整を進めます。しろみエールではイベント内容についての相談などもできます。
- イベント開催
※詳細はしろみエールまでお問合せください。

How to plan an event at Shiro-mi-yell!

兵庫県立大学学生団体 LAN の声

まだイベントは計画段階ではありますが、開催に向けて協議を重ね、イベントの実現に向けて頑張っています!

そもそもしろみエールってなに?

イーグレひめじを楽しむ仕掛けを生み出す空間(レンタルスペースイベントスペース)です。

What is Shiro-mi-yell?

しろみエール (イーグレひめじ2F)
営業時間 10:00-17:30 (定休日: 月火)
TEL 079-263-7340 FAX 079-263-7341

しろみエールHP しろみエールInstagram

しろみエール

Work space Camp space

参加してみても楽しかったです。イーグレひめじは子連れにやさしい施設で、本当にたくさんありますし、芝生で靴を脱いでくつろげるのが気に入っています。

子どもが楽しんでくれてよかったです。たくさんブースがあるので楽しいですね。

いつも数歩の休憩に立ち寄っています。今日はたまたまサブスペースまで行ってたので、カフェから椅子をうかがっていました。イーグレひめじ、しろみエールは静かで、快適に過ごせました。お昼食も利用しています。

図書館を利用するため立ち寄ったらイベントが行われていたので驚きました。子どもたちが遊ぶスペースがたくさんあり楽しかったです。

The voices of visitors at Shiro-mi-yell

制作・協力
兵庫県立大学 環境人間学部 都市計画研究室
イーグレひめじのテナント関係者の皆さま
兵庫県立大学 学生団体 Change 及び LAN の皆さま
しろみエール
夕雲デザイン事務所

この印刷物は、2022年度兵庫県立大学環境人間学部特色化プロジェクト「SDGs達成に向けた多様性・学際的視点からの数値的取り組み-持続可能性のための地域連携と知財立上げに環境情報の課題解決を目指すしー」の成果物です。

都市計画研究室 Instagram

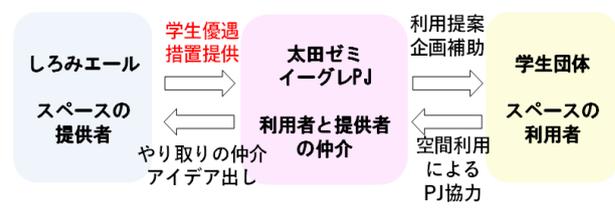
本チラシに掲載のイラストは2022年9月時点の情報です。

第5図 作成したイーグレひめじ+の裏面(しろみエールの使い方の案内)

②学生主体のイベント実施

学内の複数の学生団体にしろみエールでの活動促進を念頭に、しろみエールを学生がレンタルする際のインセンティブづくりを検討した(第6図)。結果的に、しろみエールでは「学生であること・集客が見込めること・収益を生まないこと」を条件に、学生のイベント実施には使用料を徴収しないことになった。この仕組みを利用し、学生団体とはイベント実施に当たって打ち合わせをし、イーグレの特徴を生かした内容の提案や、サポートを行った。2022年度では3団体がしろみエール主催のイベントへの参

加、単独イベントの実施となった。



第6図 しろみエールへの学生利用提案

出典: 筆者作成

3) プロジェクトの成果報告

2022年度のプロジェクトの成果発表として、2022

年11月30日に最終報告会を行った(写真4)。当日は、西松建設株式会社をはじめとして、姫路市都市計画課やイーグレ館内のテナント関係者等が参加した。内容は学生プロジェクトの報告と空間利活用に向けた提案、参加者全員による今後のイーグレのあり方に関する話し合いなどであった。また、学内向けとしては、環境人間学部が毎年実施している学内プレゼン大会の環境人間学フォーラムの場で口頭発表を行った。



写真4 2022年度の最終報告会の様子

出典：学生撮影(2022年11月30日)

2022年度のプロジェクトの成果としては以下の2点が挙げられた。第一に、イーグレ内の新たなつながりの形成であった。具体的には、イーグレひめじ+の作成による回遊性の向上と、学生がイーグレへ関わることによる施設内関係者間の関係性への変化があった。第二に、しろみエールの空間利活用の仕組みづくりであった。これは学生対象の無料レンタル制度という新たな仕組みづくりに繋がった。

2022年度のプロジェクトでは、初年度ということから、一からイーグレ関係者との信頼関係を構築する難点がありながらも、学生というどこにも所属せず柔軟性のある立場からイーグレ再生に対する具体的提案を行うことが出来た。中でもイーグレひめじ+は施設利用者のみならず、施設内テナント関係者からも好評であった。その一方で、「施設内だけでの宣伝に加え、周辺とのつながりが重要」といった今後の課題も浮かび上がった。これらのことから、2022年度ではイーグレの利活用提案にとどまったが、イーグレを知るきっかけ、新たな利用者の新たな活動の場になるという意味で、最初の土台づくりは実現できた。

Ⅲ. 2023年度の活動報告

1) スケジュール・実施体制

2023年度のプロジェクトは、4月に始動した。プロジェクトは、イーグレの再生につながるアクションを地元大学生が学生主体で実施することを目標とした。具体的な実施内容は、2022年度に続いて学生団体や学生サークルなどが、2階のイベントスペースであるしろみエールを使ってもらうための広報活動を行うことであり、これに加えて十分に利活用されていない1階のアトリウム空間でのプロジェクトの企画と実施であった。

実施体制は、2023年度と同様であり、2022年度の活動によりスタート時点から学生主体の活動に対する理解や信頼関係が構築されていた。参加学生は、春休み期間中から現地調査を開始し、イーグレ館内の現状分析を行うとともに、6月の企画提案発表会に向けて、プレゼンの内容を練り始めた。発表会後は、自分たちが提案した企画の実施、しろみエールが主催している企画への参加を積極的に行った。また、これも2022年度と同様に最終的には学内のプレゼン大会にて成果報告を行った。

2) 活動内容

1. 企画検討

6月20日(火)にイーグレひめじ管理会社、西松建設株式会社、西松地所株式会社、姫路市都市計画課、姫路市産業振興課、夕雲舎の前で、2023年度の企画提案発表会を実施した。この時点で学生はイーグレに23回足を運んでいた。当日はプレゼンを行うだけでなく、発表会の前にアトリウムとしろみエールを学生が案内し、場所の魅力を感じてもらうことで、より効果的なプレゼンを目指した⁴⁾。

2. プロジェクト実施

①おはなしじかんへの参加

7月16日(日)と11月3日(金)に、しろみエールが主催している絵本の読み聞かせイベント「おはなしじかん」に参加した(写真5)。学生はもともとしろみエールにある数多くの絵本と、イーグレの開けた空間に着目していた⁵⁾。その理由は、「絵本」

をツールとして理解し、年代を問わずに色々な人がつながるきっかけになると考えていたからであった。

学生がおはなしじかんに参加するときに意識したことは、聞き手の皆さんとコミュニケーションを取ることであった。一般的な絵本の読み聞かせは、読み手が選んだ本を読み聞かせていく一方的なコミュニケーションが多いが、新たなつながりを創出するために、読んでほしい本を子供たちにリクエストしてもらおうことで、「自分で選んだ本を読んでもらう喜び」を感じてもらおうことを意識した。



写真5 おはなしじかんの様子

出典：学生撮影（2023年7月16日）

②しろみエールでの学生活動の促進

8月27日（日）、しろみエールのキャンパススペースを利用し、学生活動を実施した。兵庫県立大学のサークルである「劇団ぼちゃん」による劇団ワークショップと「ジャズ研究会」によるプチ演奏会を開催し、来館者と大学生の交流を創出した（写真6）。

劇団ワークショップでは、しろみエールの最大の武器である「開放感」を活かし、誰でも参加しやすい雰囲気をつくり出すことができた。「何か楽しそうなことをやっている」というのが目に見えることで、だんだんとその空間に集う人が増えていく様子が印象的であった。プチ演奏会では、ワークショップに参加している子どもを連れた保護者が、芝生でくつろぎながら演奏に耳を傾けていた。演奏が終わると拍手が起こり、空間に一体感が生まれていた。

参加した2組のサークルの学生に今回の活動の感想を聞くと、「気を張りすぎずに楽しく活動することができた。」「こういう風に自然体で演奏できる空間は嬉しい。」との声をいただいた。自分たちらしく活動できる空間であることから、しろみエールで何か活動を行うことは、学生にとってもメリットがあることが明らかになった。



写真6 しろみエールの学生利用の様子

出典：学生撮影（2023年8月27日）

③1階アトリウム空間の利活用の後押し

イーグレの1階にはアトリウム空間があるが、これまで十分に利活用されていなかった。また、春休みの現地調査にて、利用に関するルールが「禁止事項：施設の毀損・汚染、無断占有、物品等の無断放置、迷惑な騒音・悪臭、その他」と、禁止事項のみが書かれており、利用しづらい印象を受けていた。このままでは実際に何ができて何ができないのかが分からないので、まずはアクションを起こす必要があることを企画提案発表会でも話した。そこで、学生は、このアトリウム空間を単なる通路ではなく、「アトリウムでツナガリウム」をモットーに人と人がつながる場所にするべきと提案した（第7図）。

4. 具体案② アトリウムでツナガリウム

29

なぜ「アトリウム」でツナガリウム？

人の動きが人を呼ぶ

全天候型

吹き抜け

開放的

外から見える

第7図 アトリウム空間のポテンシャル

出典：筆者作成

学生の提案も一つのきっかけとなり、アトリウム空間では、実際にしろみエールが主体となって新たな利用が実験的に実現した。1回目は8月24日～27日に開催された「段ボール迷路」、2回目は11月3日～5日に開催した「秋のイーグレフェス」であった（写真7）。どちらもいつもとは違った、にぎやかな雰囲気を創出することができ、またアトリウムの強みである「全天候型・開放的・外からも見える」を最大限に活かすことができた。そして「アトリウ

ムはこんな風に使用できるのだ」と、来館者だけでなくイーグレ関係者にも感じてもらうことができた。



写真7 1階アトリウム空間の利活用の様子

出典：学生撮影（2023年8月26日、11月3日）

④学内での校内放送・FM ゲンキでのラジオ出演

学生は6月から12月までの半年間、毎週木曜日の昼休みに、プロジェクトやイーグレでの各種イベント案内に関する校内放送を行った。校内放送を始めたきっかけは、研究室で運用しているInstagramでは発信力に限界を感じ、より直接的に情報を届けたいと考えたことだった。つまり、校内放送であれば、学内にいけば、自動的に情報が入る。これを継続し、「イーグレに行ってみたいな」と少しでも感じてもらうことを目的に、半年間放送を続けた。

校内放送をきっかけに「バスの待ち時間にしろみエールにいつてみたよ！」「この前のイベントの告知を聞いて、ちょっと寄ってみた！」と声をかけてくれる学生がいて、肌で効果を感じることができた。

FM ゲンキでのラジオ出演では、10月31日（火）の13:15から「飛び出せ！まちの元気人」という姫路市広報の番組に出演した。放送した内容は、「秋のイーグレフェス」の告知と、都市計画研究室の学生がなぜ・どのようにイーグレに関わっているかであった。この際に、単なるプロジェクトの宣伝ではな

く、「イーグレを盛り上げていきたい」という気持ちを率直に述べることで、リスナーの皆さんにも学生の思いが伝わったと考える。ラジオの挿入歌には、WANIMAの「やってみよう」を選曲し、今後もイーグレで様々なことにチャレンジしたいという願いを込めた（写真8）。



写真8 FM ゲンキへの出演の様子

出典：関係者撮影（2023年10月31日）

⑤クリスマスシールラリーボランティアの参加

12月16日（土）と17日（日）に、しろみエール主催で「クリスマスシールラリー」を実施した。高校生・大学生を対象に学生ボランティアを募り、西松建設及び西松地所の社員と一緒に、子どもたちにシールを配布した（写真9）。

参加学生からは、「まちづくりには色々な意味があることが分かった。」「子どもたちと触れ合いながら、実際に現場で働いている人たちとも話をしてできていい機会だった。」との声があった。参加学生には「地域貢献活動証明書」を発行し、ボランティア活動の頑張りが形に残るようにした。今後もこの証明書を活用し、しろみエール並びにイーグレに関わる学生を増やしていきたいと考えている。



写真9 クリスマスシールラリーの様子

出典：学生撮影（2023年12月17日）

3) プロジェクトの成果報告

2023年度のプロジェクトの成果報告として、2023年12月7日(木)に、兵庫県立大学環境人間学部の学内プレゼン大会である環境人間学フォーラムにて口頭発表を行った(写真10)。イーグレが複合施設であるが故の課題や、2023年度のプロジェクトのコンセプトである「イーグレひめじが誰かのちょっとした思い出の場所になる」を達成するために実践したこと、また得られた効果について発表をした。学生の投票による聴衆賞を受賞したことで、学生にプロジェクトで取り組んだことも、イーグレそのものの魅力も十分に伝わったのではないかと感じた。

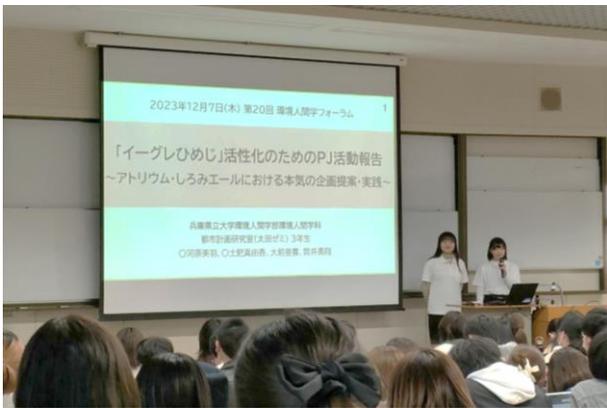


写真10 環境人間学フォーラムの様子

出典：学生撮影(2023年12月7日)

IV. プロジェクトを通して得た学び・気づき・展望 ～2023年度のリーダーとして 河原 美羽～

このプロジェクトを通して学んだことは、大きく分けて2つある。

第一に、現地に足を運び、関係する色々な人からアドバイスをもらうことの重要性である。プロジェクト当初は、イーグレが何なのかよく理解せず、何が分からないのかも分からないまま議論を進め、よく停滞していた。そんな私たちの状況を見かねた指導教員から、「イーグレに行ってみてはどうだ？」との言葉をもらった。それをきっかけに、私たちはイーグレに足を運ぶようになり、しろみエールのスタッフと会話を重ねた。そうすることで、スタッフの想いや、イーグレの中から見た課題、学生が関わる意義など、自分たちだけでは辿り着けないことまで視野を広げることができた。だからこそ、「もっとこ

うしたい」という提案を、単なる思い付きではなく、背景や根拠を述べながら発表できたと考えている。

第二に、学生だからできること、学生にしかできないことが、実社会において小さな後押しになることである。私たちはプロジェクトをきっかけに、イーグレに何度も足を運ぶようになり、イーグレの中の人たちの関係性も少しずつ理解しながら、イーグレのことを本気で考えた。そして企画提案発表会をはじめとして、「イーグレにはポテンシャルも可能性もある。イーグレを盛り上げたい。そのためにこうすることで、こんな効果がある。」ということ、素直に大人へ伝え続けた。「社会人であれば、相手との関係や自分の立場を考慮して、純粋に思ったことを伝えることは難しいけど、学生さんがこのように思ったことをストレートに伝えてくれることが、実は大人たちが動き出すきっかけになるんだよ。」と、企画提案発表会に参加してくれた方が話をしてくれた。全体の構造や関係性を理解した上で、「じゃあこうしていこう」を素直に伝えられる学生の存在は、どんな地域課題解決にもプラスになるのかもしれないと強く感じている。

今後の課題は、3階や4階、屋上、あるいは地下との館内の縦のつながりはまだまだ希薄である。これは、同じ施設内でも西松建設株式会社と姫路市が床を持ち合わせている複合施設が故の構造的課題といえるかもしれない。しかし、様々な人が関わっている複合施設だからこそできることがあるのではないかと考えている。公的機関と民間企業の壁を打破して、イーグレが一体となって活性化できるように、今後もイーグレプロジェクトとして地元の大学生が関わり続けられたら、と切に思う。

謝辞

プロジェクト実施に当たり、本当に多くの方々にご協力をいただきました。あらためて感謝申し上げます。

注

- 1) 各年度の参加学生は以下の通り。2022年度(○) 細見佳乃子・雫石千代乃・藤原志帆・前田菜緒、

2023年度（○河原美羽・大前亜喜・筒井勇翔・土肥真由香）であり、○は各年度のプロジェクトリーダーを意味する。

- 2) 東棟は地上6階・地下3階建て、1階は商業施設が入居し、2階以上はメゾン・ド・イーグレと呼ばれる集合住宅となっている。また、地下部分は駐車スペースである。
- 3) 西棟は地上4階・地下3階建て、1階及び2階は飲食店や商業施設、保育施設、兵庫県旅券事務所姫路出張所、教育施設、イベントスペースなどが入り、3階及び4階は姫路市の公共施設（姫路市男女共同参画推進センター、姫路市国際交流センターなど）、屋上は無料の展望施設である。地下には、姫路市民ギャラリー、放送大学姫路サテライトスペース、姫路市民アリーナ、コミュニティFM局等がある。
- 4) また、8月5日（土）には、お城本町自治会からの発案により、関係者（イーグレ館内のテナントの人、住居棟にお住まいの人、本町商店街の人）限定で花火大会の観賞を兼ねた夜間の屋上利用が実現した。プロジェクト参加学生も招待していただき、プロジェクト実施に向けた意気込みや活動内容をより広くお伝えすることもできた。
- 5) 絵本に関しては、しろみエールには数多くの絵本が常設されてあるため、子供たちだけでなく、中高生や大人にも楽しんでほしいという思いから、絵本に紹介ポップを付けるスモールアクションも行った。この際に、兵庫県立大学環境人間学部の「現代メディア演習」を履修する学生が作成したポップをしろみエールで再利用した。ポップの内容を少し大人向けに書くことで、絵本をあまり読まなくなった世代の人にも、絵本を手にとってもらえるきっかけとなった。こちらは現在でもしろみエールで設置されている。

（かわはら みう・ほそみ かのこ・おおまえ あき・しずくいし ちよの・つつい ゆうと・どひ まゆか・ふじわら しほ・まえた なお 兵庫県立大学環境人間学部生、おおた なおたか 兵庫県立大学環境人間学部）